

資料：印刷して手元に置いてご参加ください

2022 年 7 月 10 日 講演「ジェンダーと暴力：子どもへの影響」

講師：森田ゆり

「暴力とは何か」というテーマに取り組み 40 年になる。その発生メカニズムの研究、予防、介入、回復プログラムの開発と実践に、米国と日本の両国で取り組み続けてきた。

家庭内で起きる体罰と 国家レベルで起きる戦争というどちらも「暴力」の、驚くほどの共通点の解明。そしてジェンダーと暴力の諸相を論じてきた。

昨年 12 月に起きた大阪北区ビル放火大量殺人事件で、27 人の命を奪い自らも焰の中に飛び込んで死んだ谷本盛雄（61）の犯行からは「ジェンダーと暴力」の類型が浮かび上がる。

21 年前、2001 年 6 月、大阪教育大附属池田小学校に侵入し、小学 1～2 年生の女子 7 人男子 1 人を刺殺し、その他の子供と職員 15 人に重軽傷を追わせた宅間守と、それは見事に共通する。

私は宅間の背後に、「ジェンダーと暴力」の濃い影を見て、それを明らかにするために、2 年間に及んだ彼の公判に通った。その後「ジェンダーと大量殺人—宅間守の場合」というタイトルで、「体罰と戦争：人類の二つの不名誉な伝統」（かもがわ出版 2019 年）という本で発表している。

宅間が裁判で情状酌量を望まず、死刑を希望していたために、弁護側の被告人質問は真実を可能な限り明らかにするという異例の方針でなされた。そのため宅間はありのままの自分の心情をかなり正直に語った。刑事裁判では異例のことだ。子供時代から犯行に到るまでの宅間の経験や内面を有り体に知りたかった私にとって、あの公判は二度とない稀有な機会となった。

大阪北区ビルの大量殺人事件についても、谷本の裁判を傍聴して、家族への取材もしてジェンダーと暴力の関係をさらに解明する予定でいたのだが、彼の死によってそれは叶わなくなった。

宅間と谷本の共通点

- 1, 元妻を暴力や暴言でコントロールしていた
- 2, 妻に離婚されると、自暴自棄、生活崩壊となり、妻に復讐する（妻を殺すして自分も死ぬ）計画に何年も執着する。
- 3, 妻や子の殺害が失敗すると、絶望と自殺願望のうつ状態の中で無差別大量殺人を計画実行する。

宅間は元妻たちを暴力で支配していた。3 番目の妻からも離婚され、接触も不可能になると、彼は自暴自棄になりうつ状態に陥る。「離婚されてドツボにはまった」と証言。

彼女を殺して自分も死ぬという念入りな計画を立てることで抑うつから抜け出す。しかし興信所を使っても彼女の居所がわからず、実行に移せないのも、前日に無差別大量殺人を考え池田小での犯行に至ったことを公判で供述した。

「離婚であなたがどつぽにハマることと大量殺人がどう繋がるのか」と弁護士から聞かれると、宅間は「自分の人生を幕引きする代わりに道連れにして死んでやろうと」と答えた。

大阪北区ビル放火大量殺人の谷本は「死ぬ時ぐらい目立ちたい」と書いて、宅間と同じ無差別大量殺人をして自殺する計画と準備を一年近く前からしていたことがわかっている。マスコミはそれに「拡大自殺」と命名したりしている。

宅間守の頭の中には大量殺人や大量強姦の幻想が渦巻いていた。「有名女子中に立てこもり、1クラス分30人を強姦し、顔を包丁で切りさき、投降する」

「空港を襲ってグランドホステスとかのべっぴんさんを無差別に刺したろか。」

「今回は本当に不本意に終わった。8人殺し、8人重傷。たったそれだけの成果」と手記に書いた。

暴行の数の多さが男の強さの誇示になると信じていた。たった8人の成果だったと悔しがる彼は、まるでビデオゲームで敵を一人でも多く倒すことで満足する単純なパワー信仰を持っていた。それは支配の快楽とでも呼べるものだ。

大量殺人は男の強さか？

人の優位に立つこと、とりわけ女の優位に立つことが男の証であると信じていた宅間は、中学生の頃から、うまくいかないことがあると、路上で女子女性を性的に襲うことでそのうっづさを晴らしていました。数えきれない婦女暴行、レイプ、レイプ未遂を繰り返しました。そして結婚相手も性的に支配することにエネルギーを注ぎました。

性暴力とは、加害者の抑えきれない生理的性欲求行動ではなく、他者を支配することへの心理的欲求行動である。自分のダメさ、無力感に悩む男が、誰かを貶めて有力感を得たい。相手に俺のほうが強いんだと屈服させることで、いい気分になり抑うつ感を払拭したい。そのために彼らは性器を武器にして相手を力でコントロールする。

谷本盛雄は2008年に妻に離婚されると生活が荒れ始めた。離婚の原因は妻の口からは明らかにされていないが、夫のモラハラに悩んでいたことを周辺の人が証言している。腕の立つ職人として信頼されていた板金工場も辞めてしまい、酒浸りになり、貯蓄を競馬に散財し、絶望的になる。

2年後の2011年に自殺を考え、「死ぬ時は家族4人一緒だ。道連れにする」と元妻と二人の息子を殺そうと元妻の家に出刃包丁等いくつかの凶器を持って行った。包丁で長男の頭・肩を刺すが抵抗されて、逮捕。殺人未遂で5年の懲役刑を務めた後も別れた妻に執着し続けた。親の残した家があり、職人としての技術を持ちながらも、自分の生活を立て直すことができないまま、酒浸りの

無一文になってしまう。

1年以上前から「大量殺人」の方法をネットで調べ念入りに準備していた彼は、宅間と同じように一人でも多くを道連れにして死のうとしていた。彼の言葉では「死ぬ時ぐらい目立ちたい」心情からだ。

あの事件後、マスコミでは「孤立と貧困に苦しむ谷本に、もっと早くから生活保護の支援などがあれば防げた事件だった」などの精神科医らによるコメントが何度かのったがピント外れた。ジェンダー社会がもたらしている問題の深刻さに気が付いていない。

谷本や宅間など、DV 加害者の自我はパートナーを支配することで保ってきたものだ。暴力や暴言でパートナーの優位に立つことで自分の中の根深い劣等感を意識しないできた。だから離婚や別居で支配する相手を失うと自我崩壊を起こしてしまう。妻も子も自分の所有物のように思ってきたので、離婚してもしがみつки、執着し、ストーカーを始める。そして酒浸り、ギャンブル、うつ病、絶望と生活全般が乱れていき、最後は殺人に行きつく。

。

宅間も谷本も妻を殺そうとしたのなぜだったのだろうか。

もはや自分の下にとどめることのかなわない妻を支配し、自分のものにし続ける唯一の方法が殺すことだからだ。

男らしさ意識

DV の加害者は男らしさ女らしさのジェンダー意識に特にとらわれていきます。それは例えば次のようなところに見られる。

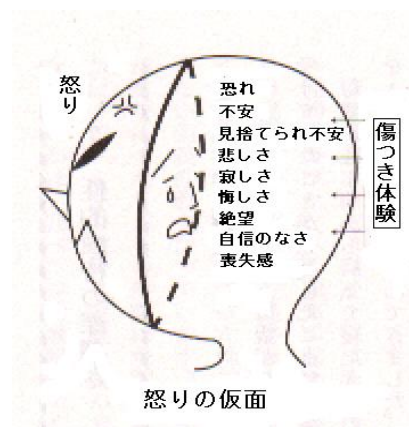
- 1、夫婦関係、パートナーとの関係では男が優位に立つのが当然と思っているため、彼女が自分より優位に立つと自分の全存在が脅かされたように思ってしまう。彼女に言い負かされること、彼女が経済力を持つこと、彼女の意見の方が正しいことが判明したときなど強い怒りを覚える。
- 2、夫であり父親である自分が一家の主人で、事の決定権を独占できていると思っている。自分のやり方に従わない妻や子どもには厳しい態度でしつけることが男らしいことだと。
- 3、悲しさや苦しさなどを口にするのは、弱音を吐いていることで男らしくないというジェンダー意識を持っているため、彼らは自分の感情を率直に言葉で人に伝えることが下手だ。対社会的には雄弁で話し上手でも、自分の本当の心の裏（ひだ）を語ること、自分のホンネを伝えること、悲しさなどの気持ちを口にするのは苦手である。

怒りは大切な感情で、あなたの大切なものが傷つけられると怒りを覚える。

また 怒りは複雑な感情だ。人が抱く怒りの背後には、悔しさ、苦しさ、絶望、悲しみ、見捨て

られ感、恐れ、不安などの様々な感情が隠れている。怒りはいわば、それらの感情の仮面だ。暴力をふるう男の『雄々しい』怒りの仮面の下をのぞくと、小さな少年の柔らかい悲しみや恐れや悔しさの感情が姿を覗かせる。

怒りの仮面



『虐待・親にもケアを』森田ゆり著より

怒りの仮面の図を見ながら考えてみよう。怒りは2次的な感情だといわれる。怒りの裏には、実は悲しくてつらい感情がたくさん隠れている。

宅間は父親が母親に暴力を振るうのを目にして育った。幼少の子どもにとってそれは恐怖や悲しみや絶望の感情が凍結してしまうほどのトラウマをもたらす体験である。

彼自身も父親から厳しい体罰をしばしば受け、恐れ、不安、辛さ、悲しさ、無力感をためこんでいた。その苦しい心理状態を宅間は公判でしばしば「むしゃくしゃする」という言葉で表現した。

「むしゃくしゃする」たびに彼は、怒りの仮面をかぶって女性をレイプし、「むしゃくしゃする」たびに駐車中の車のタイヤにナイフを突き刺し、「むしゃくしゃする」たびに妻を殴った。

MY TREE ペアレンツプログラムは、虐待に至ってしまった親たちの回復プログラム、22年前に私が開発し、以来20年間休むことなく日本各地で児童相談所などの主催で実践してきた。

このプログラムでは自分を変えるためのたくさんのツールを手渡していくが、怒りの仮面は、おそらく最も大きなインパクトを参加者たちに与えてきたツールだ。支援スキルのモデルとして、心理、福祉、教育の支援者たちにも広く活用されている。

子どもの問題行動がゆるせなくて、しつけのためだとする親の体罰や暴力が、自分の怒りの仮面の行動に過ぎず、実は、その裏には自分のかかえる悲しみがうずいていることを、親たちは気づいていく。

「怒りはいけない気もちと思っていましたが、怒りは大事な気持ちでとても複雑な気持ちで、ひとつひとつを誰かに話せたとき、怒りの爆発はなくなったように思います」(MY TREE 母親修了生の言葉)

ヘイトクライム、ミソジニーなども、自分の痛みとしての劣等感を裏に隠した怒りの仮面行動である。

怒りの仮面の図は子育てグループ、子育て支援センターや児童相談所や教育現場などで広く活用されている。心理セラピーでも活用されている 「体罰と戦争」 森田ゆり著 P 64～68
小冊子「怒りの仮面」 森田ゆり著（エンパワメントセンター発行）は、教師、親、里親研修に活用されている

・「[SOSを出す教育?! ～目黒虐待事件母親のSOSが届かなかったのは「専門家」の受信能力の無さ](https://ameblo.jp/yurimorita9/entry-12600820575.html)」
森田ゆり <https://ameblo.jp/yurimorita9/entry-12600820575.html>

・DV加害者の「異常心理」と行動を知る 「ドメスティック・バイオレンス」(森田ゆり著2001年 小学館) P168～181

・「目黒事件父親における典型的 DV 加害者の4つの特徴と釈放後の優里被告の身の危険」
https://www.cyzowoman.com/2019/11/post_256430_3.html 「サイゾーウーマン」のカルチャーに掲載中

・「野田事件父親の回復更生は？」 森田ゆり <https://gendai.ismedia.jp/articles/-/71185> 「現代ビジネス」に掲載

ここで、緊急の警報発信をさせてほしい。

2019年から法務省が進めている法制審議会の「離婚後共同監護養育制度」は今とても危険な方向にむかっている。「子どもの最善の利益」のためにと謳って、子どもの安心安全を脅かす事態をもたらす法制化になろうとしている。

kids voice Japan は、離婚の当事者や、面会交流事業者、DV相談支援関係者、離婚相談の弁護士、そして研究者などから成る団体。審議会で現在行われている家族法制の見直しにおける、離婚後の面会交流や、父母双方の共同親権も選択肢とするような監護のあり方に関する議論は、高葛藤の離婚ケースの現実と全く則さない問題があると考えます。

その共同代表を勤めている。HPを作ったばかり。是非とも visit してほしい。「日本の時代遅れの単独親権制度を欧米諸国のように共同監護制度に変えよう」「離婚後の親に男女平等の憲法に基づく制度を」といった呼びかけに翻弄されないように、当事者の声にしっかり耳を傾けてほしい。

1980年に共同監護制度が始まったアメリカでは、その制度故に子どもの安心安全が脅かされる出来ごとが続出、社会問題化してきた。2008年から今日までに861人の子どもが殺されている。

今年の1月から6月までの半年間だけでも、すでに30人の子どもが、監護権裁判や面会交流をめぐって殺されている。そのうち無理心中は13件（Center for Judicial Excellence 統計）

きのうは、on-line 講演で、「離婚後共同監護制度にふりまわされる子どもたちの怒り」と題して、アメリカの子どもたちの怒りの言葉、苦悩を映像と共に伝えました。

法制審は、離婚後も子どもが両方の親の監護の下で育つことを義務付けようとしています。母親が子どもの親権持つことに不満の別居親たちの活発なロビー活動の故でしょうか。

「子どもは、親が離婚しても、両方の親に育てられる権利がある。そしてそれが子どもの成長発達にとってベストだ」と彼らはいいます。

しかし子どもたちは言います。

「子どもは、安心でない親には会わない権利がある。

子どもには安心でない親に育てられない権利があります。」

妻を暴力や暴言で支配していた夫たちが、離婚後、妻や子を殺して自殺するケースは、実は頻繁に起きている。

アメリカではDV加害者が別れた妻子を殺して自らも自殺したケースは、2008年から今日までの14年間に400件起きている。（Center for Judicial Excellence 統計）

日本でも起きている。

・2017年長崎県諫早市で2歳の息子を離婚後面会交流に連れて行った母親が元夫に殺され、その後元夫は首をつって自殺した。

・同じ年の半年後、兵庫県伊丹市で、離婚後面会交流中に父親が4歳の娘を殺害し自殺した。

・2013年には東京文京区の小学校の校庭で面会交流中、別居中の父親が9歳の息子と自分に灯油をかけて焼身無理心中をした。いずれも暴力で妻を支配していた夫たちで、離婚後も妻子への執着を募らせ自暴自棄になっていた。

なぜ彼らは別れた妻子に執着し続け、無理心中を図るのか。

すでに指摘したように、それはDV加害者の低い自己肯定感からくる典型的な心理に由来している。彼らは、暴力や暴言でパートナーの優位に立つことで自分の中の根深い劣等感を意識しないで来た人たちだ。だから離婚や別居で支配する相手を失うと自我崩壊を起こしてしまう。生きる意味を失ってしまう。妻も子も自分の所有物のように思ってきたので、手放せなくて、しがみついてしまい、ストーカー行動、最後には殺人・無理心中に至ってしまう。

虐待・DVに至ったMY TREEの父親プログラムでは、妻から離婚を求められた父親たちに、別れた妻子に執着しないで新しい人生を始めることを勧めると同時に、妻子を手放していくための瞑想訓練をする。毎回20分。毎日家で練習することが求められる。結果驚くほどの大きな効果を発揮している。

昨年の父親プログラムでは、子どもにひどいケガをさせてしまい執行猶予中の若い父親を含め8人が、毎回する瞑想ボディワークを家でも4ヶ月間続ける宿題を、どの人もきっちりとやる生真面目さには驚いた。「ネガティブな感情に固執せず流せるようになった」「状況を客観視できるようになった」などと言葉にした彼らの変化は、瞑想とボディワークの効果そのもので、ベストの怒りのコントロール技法を身につけてもらえた。

このプログラム、大阪では今月末に面接があり、8月1日から約4か月、ほぼ毎週、土曜か日曜に開催。参加費無料、保育無料、2冊のテキストはプレゼント。私がファシリをする最後の機会。まだ参加者募集を受け付けている。

Netflix「メイドの手帳」アメリカ新作映画 シングルマザー、殴る蹴るのないDVのマインドコントロール支配の恐ろしさ、アメリカのDVシェルター内の様子、アメリカの共同監護制度が自立を求める妻子にどうネックとなるのかなどが、リアルにわかります。

□Youtube 無料ヨーガ・クラス動画 19本目をアップしています。

<https://youtube.com/playlist?list=PLIYCj7iZY-La8hSmpDPQWEwrhvuMWdy7>

テーマごとに15～20分のクラスを配信しています。

第一回「初心者のためのヒーリング・ヨーガとマインドフル瞑想」

第二回「海の力をもらうヒーリング・ヨーガと瞑想」

第三回「誰でも体幹が強くなるヒーリング・ヨーガ」

第四回「パートナーヨーガと森のヨーガを楽しもう」

第五回「デトックスの1分間太陽礼拝&うつ回復の1分間瞑想」

など。

□無料のZOOM ヒーリング・ヨーガ・クラスにいつでもどうぞ。北海道から沖縄まで全国から、アメリカからも、大人も子どもも男性もシニアも参加されています。来れるときだけの参加もOK。
毎週木曜と時々土曜の10am~11:15am Thu.and Sat. 10am (Japan time)

このミーティングに事前登録する : https://us02web.zoom.us/meeting/register/tZArcO-vrDsvGNZURWnRiqyijCxKthumkLX_

Yuri Morita Empowerment Center 代表

公式ウェブサイト <http://empowerment-center.net/>

facebook <https://www.facebook.com/yuri.morita.315>

無料メールマガジンの申し込み <http://empowerment-center.net/>

ブログ <https://ameblo.jp/yurimorita9>